

3 本時の展開（第三時）

【目標】◎毛筆を使用して、漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することで字形を意識する。

○漢字を表音文字の平仮名へと作り上げていった昔の人々の知恵と工夫を感じ、日本の言葉や文字への関心を深める。

【用意するもの】筆ペン、OHC（実物投影機）、くずし字の見本、台紙、補助線入り用紙、下書き用紙、作品用紙（数種類）、ワークシート（感想記入用）

	学習活動	教師の手立て・支援
とらえる	1 本時のねらいを知る。	漢字をくずして、平仮名にしてみよう。
	・漢字をくずすこと。 ・毛筆（筆ペン）を使用すること。	・前時までの学習を振り返り、漢字（万葉仮名）から平仮名になるまでの過程を、毛筆を使用して書くことを確かめる。
確かめる	2 平仮名の成り立ちを毛筆で書き、字形を確かめる。	・最初に演示して見せ、学習への意欲を喚起した上で、これからの活動の説明をする。 ・漢字から平仮名までの成立過程を段階的に書かせることで、字形を意識させるようにする。 ・取り組みやすいように、くずし字の見本と、補助線入りの用紙も準備する。
	・指導者の演示を見る。 ・漢字をくずして平仮名にする。	  書いた文字は台紙にはりつけていった。
広げる	3 くずした文字を使って看板などを書く。	・どんな言葉にするか考えてから書けるように、下書き用紙を準備する。 ・平仮名（万葉仮名）で書かれた看板などの画像をOHCで提示し、参考になるようにする。 ・便宜上、濁音などは、漢字の横に濁点をつけて表すようにする。 ・作品用紙は数種類用意し、自由に選べるようにする。 ・書き上がったら、作品として提出させ、廊下に掲示して他学級（学年）の児童にも見てもらえるようにする。
	・お店の名前 ・自分の名前（表札） ・お菓子の包み紙 など	
まとめる	4 本時を振り返り、学習のまとめをする。	・感想には、「平仮名を字源から書いて感じたこと」や「平仮名を発明した昔の人へひと言」などを書かせる。 ・何人かの児童に、作品と活動の感想を発表してもらう。
	・ワークシートに感想などを書く。 ・作品を発表する。	【児童の作品】   

【評価の観点】

十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
○漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することで字形を意識している。 ○他者を意識して、意欲的に作品作りに取り組んでいる。 （観察・ワークシート・作品）	○漢字（万葉仮名）をくずして書き、平仮名の成り立ちを体験的に理解することができる。 （観察・ワークシート）	○くずして書くことができない。 ・補助線入りの用紙を活用したり、手を取っていっしょに書いたりする。 ○作品作りで言葉が考えられない。 ・どんな作品にしていくなのかいっしょに考えたり、文字を調べたりする。

連載 書写の時間を楽しく ⑥

平仮名の秘密を探ろう

―平仮名の由来を理解し、点画の筆使いに
気をつけながら字形を整えて書く―（六年）

甲府市立新紺屋小学校 中込 繁樹

1 実践の趣旨

平仮名は、漢字に比べて簡便な文字であるためか、小学校低学年での指導時期を過ぎると、字形や点画の筆使いなどを特に意識することなく日常の中で使われている。そのため、学年が上がるにつれて字形に自己流の傾向が見られ、なかには何と書いてあるのか判別しかねる文字まで出現するなど、児童の平仮名に対する意識が低下していることが見て取れる。平仮名の指導は小学校の低学年ではほぼ終了するが、継続的な学習・指導の必要性を感じる。今回は、知的好奇心旺盛な小学校最高学年での平仮名学習の一つのあり方を提案したいと思う。

本単元では、国語科で学習した平仮名の成り立ち（六上P85「日本で使う文字」）について、さらに詳細な成立過程や、日本語としての特質に触れた学習を行う。また、毛筆を使用することで漢字を「くずす」行為が生じ、より速く、簡便に文字を書き表すための平仮名が生まれたことを、実際に毛筆を使用して漢字を「くずす」ことを体験させることで感覚的にとらえさせ、平仮名の字形を意識させる。具体的には、街の看板や包装紙に書かれた

平仮名（変体仮名）を提示し、その由来と字源に興味・関心をもたせ、普段自分が書いている平仮名の課題を字源から考えて修正できるようにしたい。そして、現在の平仮名の成立過程と歴史を知り、だれもが共通して読める文字を書くことを意識させたい。また、看板などの日常生活の中で今なお残る仮名（変体仮名）に触れたり、平仮名の由来について考えたりすることを通して、日本語の言葉や文字に対する興味・関心を深められるようにし、さらに中学校で行う「行書」学習にもつなげたい。

2 指導計画（全四時間）

第一時 万葉仮名を知る。

第二時 平仮名の由来を知る。

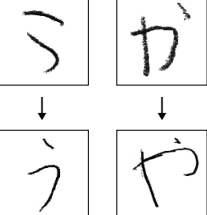
第三時 漢字をくずして書き、平仮名の字形を意識する。（本時）

第四時 筆使いに気をつけながら字形を整えて平仮名を書く。

3 本時の展開（次ページ参照）

4 後記

単元終了後、児童は、字源を意識し、字形を整えて平仮名を書くようになり、普段の書き文字にも変化が見られた。

う（宇） や（也）

・一画目の点の長さや方向を直した。
・二画目の始筆と曲がりの方向に気をつけた。
・一画目の曲がりの方向に気をつけた。
・点の位置が一画目の上に乗るようになった。